

Economic Indicators

発表日: 2020年11月18日(水)

貿易統計(2020年10月)

～輸出入ともに前年比での下げ幅を縮小、輸出はほぼ前年並みの水準に～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部

エコノミスト 奥脇 健史 (TEL: 03-5221-4524)

		貿易収支(億円)				輸出数量				輸入数量					
				輸出金額		輸入金額				アメリカ		EU		アジア	
		原数値	季調値	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比
19年	11月	▲ 884	▲ 1,729	▲ 7.9	▲ 15.6	▲ 5.0	▲ 9.7	▲ 10.3	▲ 2.7	▲ 8.1	▲ 1.4	▲ 10.6	▲ 8.5		
	12月	▲ 1,591	▲ 1,307	▲ 6.3	▲ 4.8	▲ 1.9	▲ 11.4	▲ 7.4	0.5	1.2	▲ 5.0	2.5	0.5		
20年	1月	▲ 13,151	▲ 2,268	▲ 2.6	▲ 3.6	▲ 1.6	▲ 8.9	▲ 9.1	▲ 1.5	▲ 1.7	▲ 19.9	1.2	0.3		
	2月	11,066	4,236	▲ 1.0	▲ 13.9	▲ 2.4	▲ 4.5	▲ 9.7	▲ 0.9	▲ 17.3	▲ 11.1	▲ 8.5	▲ 25.0		
	3月	72	▲ 2,269	▲ 11.7	▲ 5.0	▲ 11.2	▲ 15.9	▲ 9.1	▲ 10.5	▲ 2.5	▲ 1.8	▲ 2.6	▲ 2.6		
	4月	▲ 9,312	▲ 9,522	▲ 21.9	▲ 7.1	▲ 21.3	▲ 36.9	▲ 27.7	▲ 11.8	1.5	4.2	▲ 0.2	5.6		
	5月	▲ 8,413	▲ 5,524	▲ 28.3	▲ 26.1	▲ 27.3	▲ 49.4	▲ 34.8	▲ 11.4	▲ 14.6	▲ 22.8	▲ 26.3	▲ 8.7		
	6月	▲ 2,729	▲ 3,733	▲ 26.2	▲ 14.4	▲ 26.9	▲ 47.0	▲ 33.0	▲ 17.7	▲ 0.8	▲ 12.7	▲ 6.2	0.0		
	7月	71	1,104	▲ 19.2	▲ 22.3	▲ 21.9	▲ 21.5	▲ 36.7	▲ 11.3	▲ 14.0	▲ 28.0	▲ 12.6	▲ 10.8		
	8月	2,444	3,651	▲ 14.8	▲ 20.7	▲ 14.9	▲ 20.1	▲ 27.5	▲ 7.3	▲ 11.5	▲ 22.4	▲ 15.1	▲ 7.5		
	9月	6,878	4,400	▲ 4.9	▲ 17.4	▲ 7.7	▲ 6.1	▲ 23.3	▲ 3.7	▲ 8.5	▲ 16.5	▲ 3.3	▲ 7.7		
	10月	8,729	3,143	▲ 0.2	▲ 13.3	▲ 1.6	0.8	▲ 10.9	2.8	▲ 5.7	▲ 21.5	▲ 8.3	▲ 2.7		

(出所)財務省「貿易統計」、前年比(%)

○世界経済の持ち直しが続き輸出入ともに前年比での下げ幅を縮小、輸出はほぼ前年並みの水準に

財務省より発表された10月の貿易統計によると、貿易収支は+8,729億円の黒字(コンセンサス: +3,000億円の黒字、レンジ: ▲548億円の赤字～+10,900億円の黒字)となり、コンセンサスを大きく上回る結果となった。輸出金額は前年比▲0.2%(コンセンサス: 同▲4.5%、レンジ: 同▲9.0%～同▲3.4%)、輸入金額は同▲13.3%(コンセンサス: 同▲8.8%、レンジ: 同▲19.5%～同▲3.3%)と、輸出入ともに9月から前年比での下げ幅を縮小、輸出はほぼ前年並みの水準となった。

品目別にみると、輸出については、鉱物性燃料(前年比▲68.6%)、鉄鋼(同▲20.4%)などの減少が続いた一方、自動車(同+3.0%)、非鉄金属(同+32.3%)などが前年を上回った。輸入については、原油(同▲42.6%)や液化天然ガス(同▲42.7%)、石炭(同▲35.4%)などの大幅な減少が続いており、輸入の下押し圧力となっている。

季節調整値でみると、輸出金額は前月比+2.6%、輸入金額が同+5.1%、貿易収支は3,143億円の黒字となった。輸出入ともに持ち直しが続き、輸入金額の伸びが輸出金額の伸びを上回ったため、10月の貿易収支は9月(4,400億円の黒字)から黒字幅が縮小した。

10月も各国での経済活動正常化の動きが続いたことを受け、輸出入ともに持ち直しの動きが続いた。輸出については、自動車をけん引役に、中国向け(前年比+10.2%)、米国向け(同+2.5%)が前年を上回る水準で推移したほか、アジア向けも同+4.4%と前年を上回った。一方、輸入については持ち直しが続いているものの、原油価格など燃料価格の低迷などが影響し、輸出と比較して持ち直しのペースは鈍いものとなっている。

○実質輸出は前月比+2.6%、アジア向けを中心に5か月連続で増加

為替などの価格変動の影響を除いた10月の実質輸出(実質化・季節調整は第一生命経済研究所試算)は、前月比+2.6%(9月: 同+5.2%)と5か月連続の増加となった。品目別にみると、自動車等の輸送用機器(同+2.1%)や一般機械(同+3.5%)、電気機器(同+2.5%)など、幅広い品目が9月

から増加したとみられる。

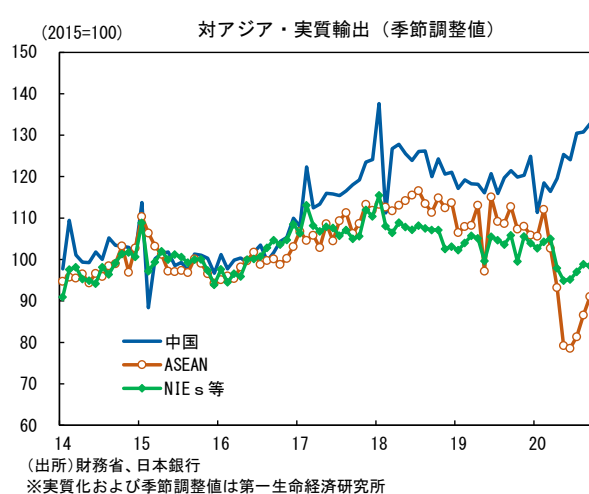
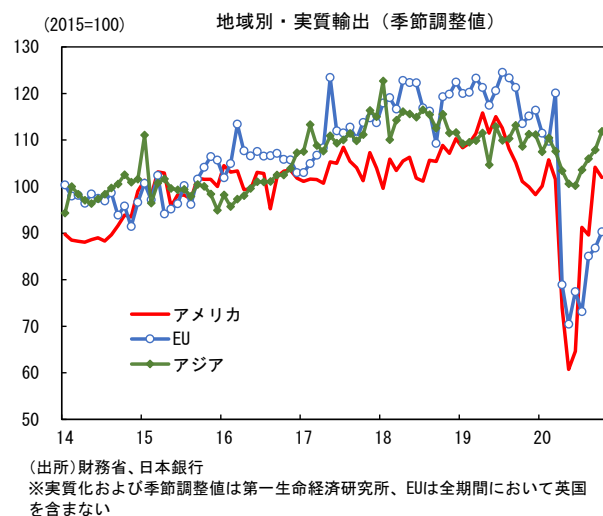
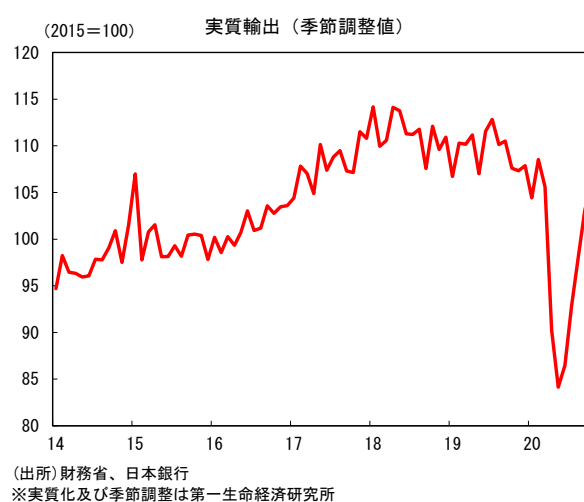
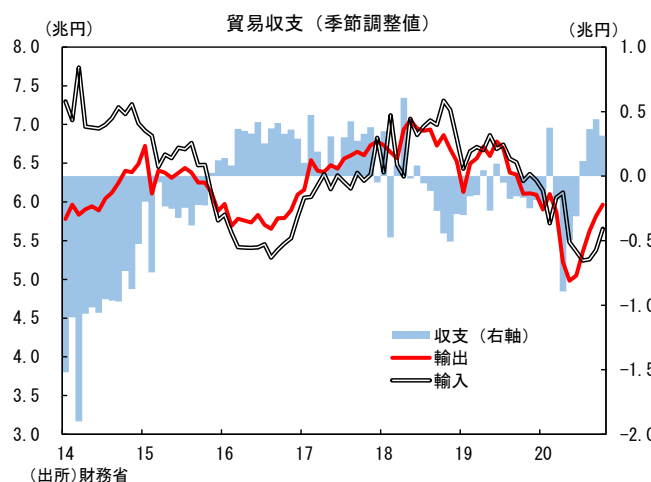
国、地域別にみると、アジア向けが前月比+3.7%、EU向けが同+2.5%と増加が続いた一方、9月に大きく増加した米国向けが同▲2.1%、中国向けが同▲2.1%と減少に転じた。もっとも、米国、中国向けについては9月から減少となったが、他国と比較し高い水準となっており、特に中国向けは新型コロナウイルス感染拡大前の水準を上回って推移している。

○輸出入は今後も持ち直しを見込むも、先行き不透明感は強い

10月の貿易統計は、各国での経済活動再開が進んだことを受け、輸出入ともに持ち直しが続いた。輸出については、米国、アジア向けなどが前年を上回り、全体ではほぼ前年並みの水準となった。

世界各国で経済活動正常化の動きは進んでおり、今後も輸出の増加基調は続くと思われる。もっとも、世界経済の回復は緩やかなものにとどまる見通しであることから、先行きの増加のペースは鈍化していくとみられる。輸入については、日本での経済活動正常化の動きが続いていることから、今後も持ち直しが続くと思われるが、燃料価格の低迷が続いていることが輸入の下押し圧力となるだろう。

先行きのリスクは、引き続き新型コロナウイルスの感染動向である。欧州では新型コロナウイルスの新規感染者数が大幅な増加を受け、10月末から一部の国で経済活動の制限措置をとっており、欧州の経済成長率は10-12月期に再びマイナスに転じる可能性があるなど、輸出への一定の悪影響は避けられないだろう。また、米国でも大規模な感染拡大は続いており、今後全米規模での経済活動の制限措置が行われるような事態となった場合には、輸出への影響は大きなものとなる。先行きも輸出入の持ち直し基調は続くと思われるが、世界経済の先行き不透明感は強い状況が続く見通しである。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。